



毎年恒例の秋祭り。入居者家族はもちろん、地域住民も大勢参加した



おやつでも、自分の手でつくればおいしさもひとしおだ



地元の中学生が吹奏楽の演奏を披露

## 地域との交流が途切れないよう積極的に開きつなぐを保つ

マリンスポーツの聖地である湘南や、国内でも有数の景勝地である江の島など、神奈川県内でも観光地が多いまちとして知られている藤沢市。そんな藤沢市の住宅街に入ったところにあるのが、社会福祉法人八寿会が運営する特別養護老人ホーム「みどりの園」だ。

なかに入ってみると、地元の中学校の吹奏楽部がさまざまな楽器で美しい音色を響かせていた。ハリウッド映画会社のテーマソングや、昔大ヒットしたポピュラーソングなど懐かしい曲の数々に、入居者たちは目を閉じたり拍手を送ったりして聞き入っていた。

同施設は2001年にオープンした。施設を囲む住宅街も同じ頃に発展していった。当初は特養の開設に消極的な住民が多かったが、

応援してくれる住民もおり、そのおかげもあってオープンにこぎ着けた。しかしそれでも、一度介護施設に入居してしまえば、これまで培っていた地域や人とのつながりは途絶えてしまう。そこで、同施設は「地域に開く」ことに力を注いでいる。

「たとえ施設に入居したとしても、これまでと同じく『地域の住民』として生活できるよう、交流を図っ

てきました」と、入所事業部部長の似島恵美さんは振り返る。新型コロナウイルスの流行により地域との交流が中断してしまった時期もあったが、施設でお祭りをすれば入居者家族だけでなく地域住民も訪れたり、施設内の書道クラブや音楽クラブでは書道家や音楽療法士が指導したりと、積極的な交流を行っている。

このほかにも、ファストフードを職員がテイクアウトして施設で食べたり、お寿司の出前を取ることもあるそうで、入居者の楽しみとなっている。加えて、同施設では「個別担当制」を採用している。一人の職員が一人の入居者の担当となり、入居者からたとえば「お墓参りに行きたい」「誕生日会を開きたい」といった希望があれば、入居者家族との相談のもと、「個別担当者デー」の際に実行している。施設で暮らすとなると、どうしてもこれまで自由にできていたことが難しくなってしまう。しかし、そんななかでも楽しみを見出せることができると考えだされた取り組みだ。

「コロナ禍だったことで地域との交流も控えていたこともあり、それまでは余暇活動に後ろ向きになりがちでした。それでも、今は動けるようになってきたので、『ご入居者に楽しみがある生活を送ってもらおう』という意識をよりもってほしいと職員に伝えていきますし、イベントの企画もしてもらっています」と似島さん。もちろん日常の生活も職員に大切にしてもらうため、入居者に丁寧な対応をするようにと伝えているという。

続きは、本誌2月号をご覧ください